CASBEE®熊本《新築》【 性能表示 】

■ 建物概要

建物名称	（仮称）上村循環器科医院	階数	地上5F
建設地	熊本県熊本市中央区	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域・第1種中高層住居専	平均居住人員	50 人
気候区分	6地域	年間使用時間	6,745 時間/年
建物用途	病院,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年4月　0.0	評価の実施日	2015年5月1日
敷地面積	1,239 ㎡	作成者	大林真琴
建築面積	692 ㎡	確認日	2015年5月8日
延床面積	2,889 ㎡	確認者	大林真琴

■ 外観

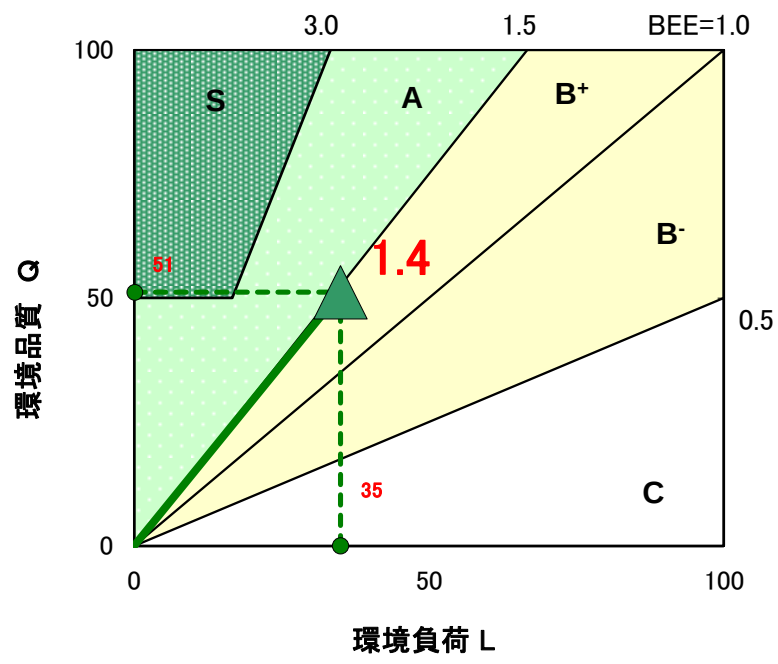
1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）

★★★☆☆

BEE = 1.4

■BEE（環境効率）= Q（環境品質） / L（環境負荷）



■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	―
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	―
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	―
C	★	劣る	0.5未満	―

■ライフサイクルCO_2 排出性能評価基準

判定値（排出率）	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO_2排出性能（ランク表示）

☆☆

排出率
89%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点
82

	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	87.5
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	67.5
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	75.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	91.5

■熊本県重点評価基準

判定値（評価点）	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE熊本《新築》評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版　使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要

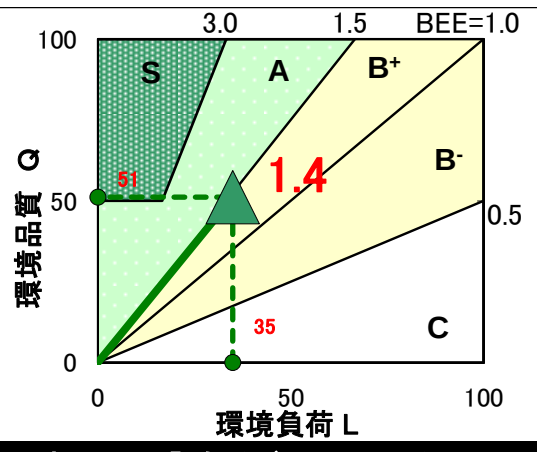
建物名称	（仮称）上村循環器科医院	階数	地上5F
建設地	熊本県熊本市中央区	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域・第1種中高層住居専用	平均居住人員	50 人
気候区分	6地域	年間使用時間	6,745 時間/年
建物用途	病院,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年4月　0.0	評価の実施日	2015年5月1日
敷地面積	1,239 ㎡	作成者	大林真琴
建築面積	692 ㎡	確認日	2015年5月8日
延床面積	2,889 ㎡	確認者	大林真琴

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）

BEE =1.4 ★★★☆☆

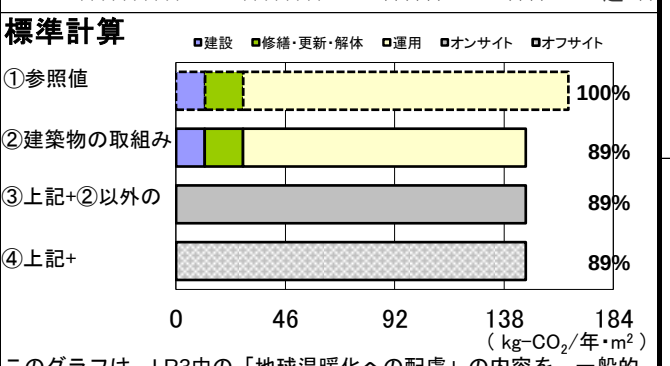
S: ★★★★★　A: ★★★★　B+: ★★★　B-: ★★　C: ★



2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

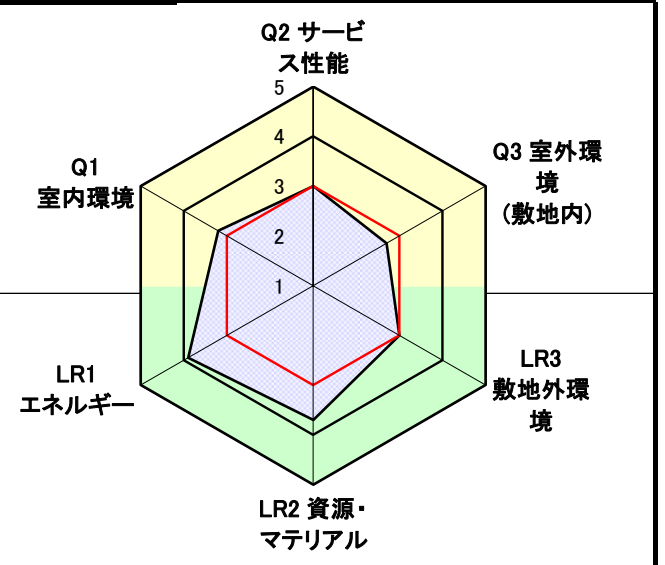
☆☆☆☆☆　☆☆☆☆☆　☆☆☆☆　☆☆☆　☆☆

30%: ☆☆☆☆☆　60%: ☆☆☆☆　80%: ☆☆☆　100%: ☆☆　100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

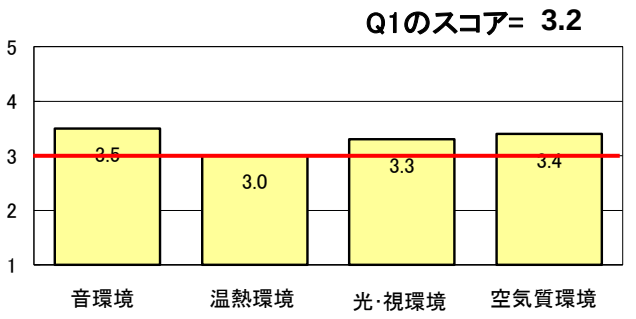
2-3 大項目の評価（レーダーチャート）



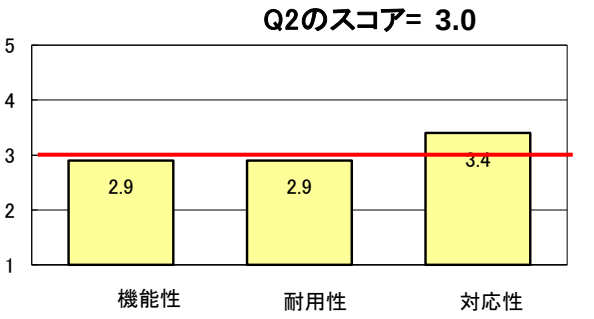
2-4 中項目の評価（バーチャート）

Q 環境品質　　Q のスコア= 3.0

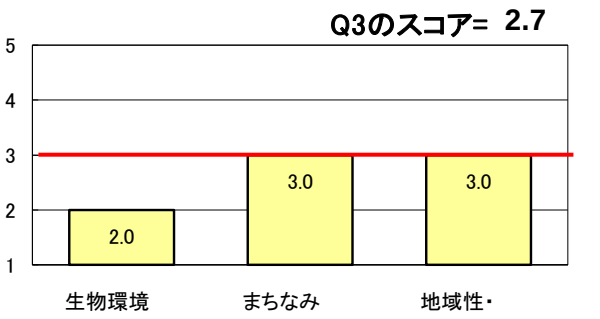
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.2



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.0

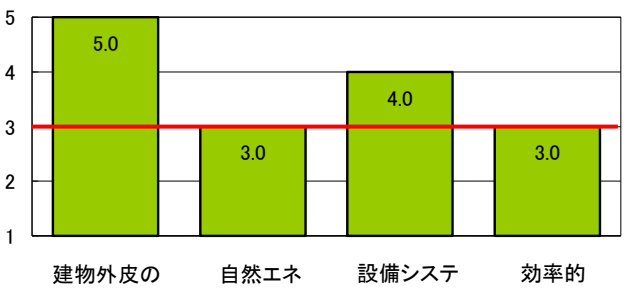


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.7

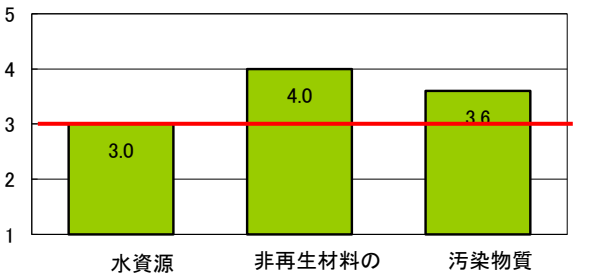


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.6

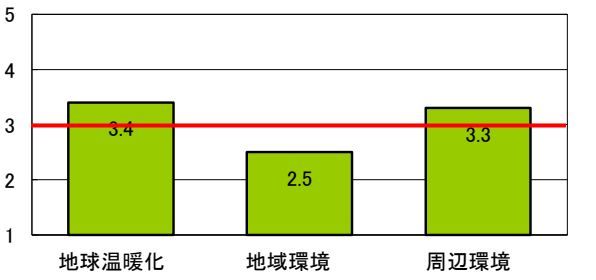
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.9



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.7



LR3 敷地外環境　LR3のスコア= 3.0



3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

評価点 = 82

重点事項1：温室効果ガス排出量削減の推進

評価点 = 87.5

重点事項2：安全安心で暮らしやすい社会の実現

評価点 =67.5

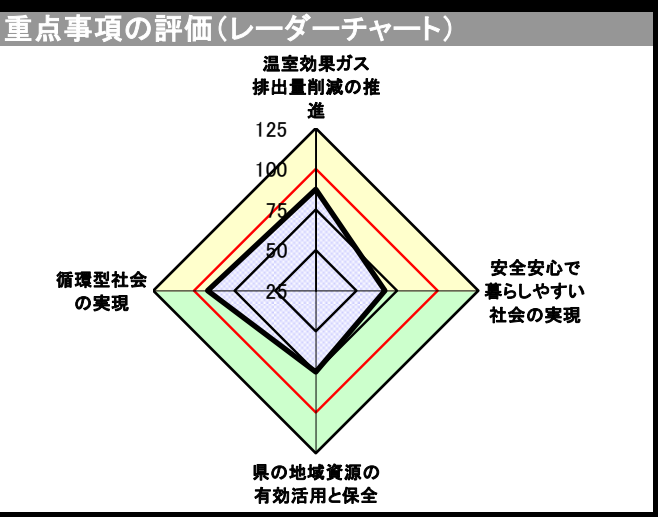
重点事項3：県の地域資源の有効活用と保全

評価点 = 75.0

重点事項4：循環型社会の実現

評価点 =91.5

重点事項の評価（レーダーチャート）



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO_2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE−建築(新築)2014年版
（仮称）上村循環器科医院

■使用評価マニュアル：　CASBEE-建築(新築)2014年版
■評価ソフト：　CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						**3.0**
Q1 室内環境			0.40		-	**3.2**
1 音環境		3.5	0.15	2.8	1.00	3.5
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音		4.4	0.40	3.6	0.40	
1 開口部遮音性能	T−2のサッシ性能を確保	5.0	0.40	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能	病室や診察室に遮音間仕切りを採用	4.0	0.60	3.0	0.30	
3 界床遮音性能（軽量衝撃源）		-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能（重量衝撃源）		-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		3.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境		3.0	0.35	3.0	1.00	3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境		3.3	0.25	3.3	1.00	3.3
3.1 昼光利用		4.2	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率	間口に対して奥行きが短い形状としている	5.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境		3.4	0.25	4.2	1.00	3.4
4.1 発生源対策		3.0	0.50	5.0	0.63	
1 化学汚染物質	原則として全ての材料を☆☆☆☆品を採用	3.0	1.00	5.0	1.00	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
4.2 換気		3.0	0.30	3.0	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		1.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-	
1 CO_2の監視		3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御	敷地内及び建物内を禁煙としている	5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能		–	0.30	-	-	**3.0**
1 機能性		3.0	0.40	2.2	1.00	2.9
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	1.0	0.60	
1 広さ・収納性		3.0	-	1.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応		1.0	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	4.0	0.40	
1 広さ感・景観	天井高さ2．5m以上確保、隣地の緑地を借景としている	3.0	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	
3 内装計画	木目調の内装材を一部に採用している	3.0	1.00	4.0	0.50	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		2.8	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性			2.8	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		1.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	井戸水の利用、節水型衛生器具を採用している	4.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.4	0.30	3.5	1.00	3.4
3.1 空間のゆとり			4.4	0.30	4.0	0.50	
1	階高のゆとり	天井内ダクトルートを確保した階高さとしている	4.0	0.60	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	病室の平均値を算定（間口に対して奥行きが短い形状としている）	5.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境（敷地内）			–	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			–	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			–	0.40	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI：0．75	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI　非住宅 0.87　住宅（専有部） 0.83	4.0	0.50	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		高効率機器の採用	4.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			–	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.0	0.60	-	-	4.0
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		基礎部に高炉セメントを採用している	5.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		グリーン調達品目（ビニル系床材、磁器質タイル）、エコマーク（再生木	5.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		乾式間仕切を主体とした分別可能な内装材を採用している	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用		指定化学物質を含まない材料を選定している	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤（断熱材等）		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			–	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		RC造としているので躯体の耐用年数60年確保している	3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-			
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	過剰な外部照明、屋内照明を行っていない	5.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策	LED照明を採用した館名サインを計画している	4.0	0.30	-	-	

CASBEE熊本《新築》【 配慮事項 】

4 設計上の配慮事項

総合

透析治療が主な有床診療所であり、５０床の透析ベッドを有する。透析治療には大量の水を必要とするため、井戸水を採取してランニングコストを抑えた計画としている。また、透析患者とスタッフのアメニティ向上を図る為、床輻射熱空調の採用、間接照明、ベッドサイド照明を採用している。また、南北に長い敷地であるため、西側開口部は必要最小限の面積としつつ、Loweガラスを採用している。その他、建物の高断熱化を図り空調負荷の低減を図っている。

Q1 室内環境

透析室内の空調及び照明計画によるアメニティ向上の他、外来患者待合は外部からの採光確保、医師控室、透析室、病室等は、東側隣地の緑地を借景とした計画としている。その他、診察室や病室については、隣室からの声が聞こえないように遮音間仕切りを採用している。また、病室の床及びELVホール壁面には、木目調の内装材を採用し、温かみのあるインテリア計画としている。

Q2 サービス性能

車で通院する患者のために、建物１階に駐車場を設け、雨に濡れずに建物内に入ることができるよう計画している。建物内については、患者とスタッフの動線を明確に分離し、医療現場の働きやすさに配慮している。その他、スタッフ用の休憩室、食事スペースを設け、スタッフのアメニティにも配慮した計画としている。

Q3 室外環境（敷地内）

熊本市の緑化計画の基準を満たすよう敷地内緑化及び屋上緑化を計画している。また、国道５７号線に面する１階部分には、来院者及び信号待ちの通行者が雨宿りできる庇空間を設けている。

LR1 エネルギー

空調負荷の低減を図る為、外壁及び屋上スラブ面、１階駐車場の上部スラブ面の高断熱化、及び複層ガラスを採用したサッシ等、外皮性能の向上を図っている。

LR2 資源・マテリアル

構造躯体の一部に高炉セメント、内装材や屋外ウッドデッキにリサイクル材又はグリーン調達項目に該当する材料を採用している。

LR3 敷地外環境

光害を与えないよう反射ガラスの採用を控えるとともに、騒音や振動等の影響を最小限にするよう室外機器についても低騒音型を採用している。また、敷地内に降った雨水については、熊本市の指導に基づき浸透桝を採用し、水資源の保全に努めている。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート　実施設計段階

建物名称	*（仮称）上村循環器科医院*

■評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)　■使用評価マニュアル：CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点	82
重点事項	重点項目（配慮項目）	スコア	重み係数	評価点	重点事項重み係数	評価配点
① 温室効果ガス排出量削減の推進				87.5	0.40	35.00
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				67.5	0.20	13.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.29			
LR2-1.1	節水	3.0	0.43			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.29			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				91.5	0.20	18.30
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.8	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点　＝　（各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数）の総和

※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項（①～④の項目）

評価点　＝　（各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数）の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20 ： スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数